早大番外地を全学化せよ！

早大反戦連合
教育学部叛逆者連合

「偽りのマルクスと創造にかこまれて
人がベッドにはいる時
英雄であるかバ子は武器を手にとり
現サークルを、現大学を
こえていくのだ!!」

あの四・一学館闘争はいわば本来闘体を自らのものとする番外地闘争として開かれた。しかしながら我々は決して番外地を「番外地」とするだけではとどまらないであろう。我々は前の一年間にわたって続けられた第六・五の闘争を頂点とする全国学園闘争が、そのウセンが静かであるが故に終ることはないであろうという確信は揺ぎ無いさ、我々の闘いはこの間からとってきたであろう、それは決して早大自大を「番外地」としてとどめることを拒否するが故にある闘いであり、それはくしゃ決して全国学園闘争に勝利することはできないであろう。四・一学館闘争は何ぐまでも闘いの出発点であり、各党派諸君がいうような「管理運営権を学校当局にトップ交渉してもらいさげる」といったものでは決してありえない。それは当局にしっかりかつて「ゴ」ゴ我々を支配する以外の何ものでもない。我々は教育のよい学館をもらいさげたところで闘争をやめることを欲しない。それは単に後退の型闘内移動で解決される問題でもない。それは現在のサークルのあり方、大学の移行とのものに向いかけられた型通な疑問点があるだろう。

「続・早大闘争へのアプローチ」

「いわゆる学生さん運動」
「現サークル解体」
「自治会民主主義崩壊」
（赤色自治会主義）

全共闘運動

閉ざされたバリケード
開かれたバリケードへの移行

「全ての闘争破壊を許すな!!」

今までの学友諸君、我々にとって学問とは、大学とは、サークルとは一体何であるのかという本質的な問いを、今まで一度もなげかけようとしていない。学校当局とのトップ交渉により、我々の闘いを圧殺せんとしている。闘争破壊を許さず、我々の闘いを勝ち取っていこうではありませんか。早大反戦連合、教育反戦連合は闘争のための大衆機関として、今までの学友の参加と協力を願うことを宣言する。

「拒絶が静かな思想の着地であった……が、
しかしそれは暗やみであった。……でも、
暗やみに光を見出す自己を発見したとき、
彼はあらしの前に立つ。」　文責 J・T

連絡先　第二学生会館内　厚野連合